

私たちがめざすもの それは・・・

ゆたかな緑 きれいな水 いきた大地

NPO法人水環境研究所

わきみず通信

第17号

平成27年9月5日発行



羅漢の井 (市川市 里見公園)

活動レポート

特集 東京近郊の湧水とまいまいず井戸巡り(平成27年7月5日)

4年振りの千葉県外への巡検は、日帰り巡検とあって、関東圏内から選定しました。梅雨最中の巡検とあって、計画時から心配していたのですが、やはり当日朝から結構強めの雨！雨天決行とは言え、やはり雨の中の巡検は楽しみも半減してしまいます。あまり期待しないで出発しましたが、午前9時に千葉市内を出発、湾岸、首都高、中央道に入った頃から車のワイパーも必要なくなり、最初の目的地に着いた時には、雨具も必要ありませんでした。結局、千葉に戻るまで傘いらず、しかも夏の日差しがない分、とても快適な巡検となりました。千葉では日中大雨だったと聞いて、ほんとにラッキーでした。

それでは、参加されなかった皆様に巡検のコースをご案内しましょう！

お鷹の道

国分寺市にある「お鷹の道・真姿の池湧水群」は江戸時代に市内の村が尾張徳川家のお鷹場として指定されそれに因み湧水が集まった清流沿いの小径を「お鷹の道」と名付けられた事に始まります。

多摩川の国分寺崖線沿いにある名水脈は都内にある2つの名水百選のひとつで昭和60年に全国名水百選のひとつとして選ばれています。

私たちはまず国分寺跡資料館に足を運び、敷地裏の崖から湧く湧水を観察しましたが湧水保全のために立入が禁止されており、湧出口を直に見ることはできませんでした。資料館を後にして、「お鷹の道」を散策しながら名水百選「真姿の池湧水群」を目指しました。

小路沿いに湧水ががせせらぎとなって流れ、都内の喧騒がうそのようです。目指した湧水は水量が豊富で、湧出口の崩落を防ぐため石垣が組まれていました。都会のオアシスとしてぜひお勧めです。



名水百選「真姿の池湧水群」。



お鷹の道



小路に沿って清流が流れています。



農家が野菜を売っています

五ノ神社 まいまいず井戸

東京都の奥多摩に近い羽村市にある五ノ神社の境内にすり鉢状の大きな穴が開いており「東京都史跡五ノ神まいまいず井戸」と書かれた標柱が建っています。地表で 16m程の穴の上部から螺旋状に下に降りる道があり二周するとそこにたどり着きます。

底部は直径 5m程で中央に普通の井戸が垂直に深さ 5.9mの掘り井戸があります。穴の斜面はかなり急峻なため水を汲んで運ぶには螺旋状の道造る必要があったためカタツムリに準えて「まいまいず井戸」と呼ばれるようになったとの事です。

本井戸は大同年間（806～810 年）か鎌倉時代（1183～1383 年）の創建と推定されており、昭和 35 年水道が敷設されるまで付近の住民は共同井戸として使用されていたものです。今でこそ井戸掘りの技術は進み簡単に地下水が手に入る時代ですが、近代的な道具も無い千年以上昔、水を求めて武蔵野台地に 5m以上もの穴を掘ることがどれだけ大変な工事だったことか・・・古代のロマンが感じられる場所でした。



青梅市の大井戸

羽村市よりさらに北に車で約 15 分ほどのところにあります。青梅市の大井戸は「古青梅街道」と「秩父道」の二本の古道の交差する位置にあることから江戸時代の開発以前から道行く人馬の飲み水の供給場所となっていたものと思われます。

この地域の開発は江戸時代 2代将軍徳川秀忠の頃（慶長 16 年（1611 年））に狭山方面に鷹狩りをした際武蔵野の一面の野原を見て新田開発を思い立ち水の必要性が高まったものと考えられます。

現在は、挿鉢状の井戸が「新町の大井戸」として復元され東西約 22m、南北 33m、深さ 7mで、中心の井戸枠から下に 15.2 メートルの筒状の井戸が掘られており、上総層群に達し武蔵野台地の水脈から水が得られています。

この日は井戸に通じる螺旋状の道が閉鎖されていて、残念ながら井戸を間近に見ることはできませんでした。残念！



まいまいず井戸について

武蔵野台地は表土を関東ローム層が覆いその下には砂礫層が堆積しており地下水脈がかなり深いため水を得るには深い井戸を掘らなければなりません。崩れやすい砂礫層に直接深い井戸を掘ることはさく井技術の未発達には困難であったことでしょう。そこで、砂礫層にすり鉢状の大きな穴を掘り、硬い地盤まで掘り下げ、そこから井戸を掘ると言う構造の井戸を造っていったと考えられます。

井戸構造は地表から 15m前後の穴を掘りらせん状の降下道を造り、最下部に 10m前後の井戸が掘削され、これを「まいまいず井戸」と呼んでおり武蔵野台地で多く見られています。

武蔵野台地では帯水層が深く不圧地下水であるため「掘抜き井戸」では地下水が噴出しないため「まいまいず井戸」を使用するしか水を得る方法がなかった。江戸時代の 1700 年代から井戸技術が進歩し各地で井戸が掘られる様になり、その代表が「上総掘り」です

ご参加ください！

湧水モニタリング調査

今年度も昨年度に引き続き、9月から各エリア別に湧水調査が始まります。今回は各コースの見どころを紹介いたします。お友達、ご家族をお誘いの上ふるってご参加ください。各コースのスケジュールは9月～12月に実施されます。皆様のご参加をお待ちしております。日程は随時メール、ホームページを通して皆様にお知らせいたします（お申し込みは 岩井080-6515-6497まで）

- ① 手賀沼エリア こん袋池、四季の丘湧水、増尾湧水など8カ所
手賀沼の周辺に分布し、下総台地の裾から湧く湧水が特徴です。手賀沼の北岸ではシルト層の崖から、南岸では段丘に湧く様子を直に観察することができます。また、史跡「月出の井戸」など故事来歴のある調査地点も見どころです。
- ② 外房エリア 神余の弘法井戸、灰汁井戸、清澄水など7カ所
南房総市や館山市を中心とする本コースには、千葉を代表する観光地を通るためドライブも楽しめます。また「神余の弘法水」は故事来歴のほか黒褐色の温泉に近い成分を持つ個性的な湧き水で、必見です。
- ③ 印旛沼エリア 加賀清水、上座公園、西御門など17カ所
下総台地を涵養域する本コースの湧水は、印旛沼の水源として重要な役割を担っています。流域ではのどかな谷津田風景を見ながら湧水を観察することができます。都市化が進む本エリアでは、谷津田の開発による湧水の消滅や窒素による地下水汚染など多くの課題を抱えています。
- ④ 内房エリア いっせんぼく湧水、黄和田湧水、瀧不動尊など11カ所
市原市を中心とするこのコースの湧水は下総層群から上総層群と地質環境が変化するエリアに分布し、下総台地とはまた湧出機構が異なり、一味違う湧水が見られます。水質にも特徴があり、硫黄臭がする湧水が見られるのもこのコースの楽しみです。
- ⑤ 九十九里エリア 猿田神社、石尊様、龍福寺の湧水など11カ所
長南町から銚子市まで太平洋側の湧水を観察します。地形地質が変化するこのコースでは湧出機構に様々なタイプの湧水があり、故事来歴、湧水量、窒素汚染など様々な特徴をみることができます。
- ⑥ 奥東京湾エリア 羅漢の井、宮の下湧水、村田川湧泉など7カ所
都市化が進む市川市、松戸市や千葉市の湧水を観察します。ピオトープや公園など都市部に特徴的な整備された湧水が特徴です。村田川湧泉は毎分700リットル以上と全調査地点中有数の湧水量を誇ります。
- ⑦ 利根川エリア 権五郎目洗いの池、横山湧水、長寿水など6カ所
野田市～神崎町までの利根川沿岸のコースです。のどかな田園風景と共に故事来歴の湧水や生活に密着した湧水を観察できます。

印旛沼体験フェア

ブースにて、書籍、パンフレットの展示などで活動紹介を行います。また、パックテストなどで簡易水質検査のデモも予定しています。また、会場では印旛沼対象の授賞式も行われる予定です。

平成27年10月24日(土) 9:30～4:00 (1:00開場) 入場無料

会場：印旛沼ふるさと広場

申込不要 直接現地へお越しください。なお、当日お手伝いいただける方は岩井までご連絡を！

谷津田の還元的環境の効果調査（印旛沼環境基金助成事業）

昨年度に引き続き水環境調査の成果をもとに、谷津田における脱窒効果の検証を目的とした調査をテーマとして調査研究を実施します。今年度は印旛沼流域全体の一斉調査、及びその中から選定した谷津田をモデルとして選定し、窒素の脱窒効果を検証します。

今年度の調査は下記の予定で実施いたします。ふるってご参加ください。

一斉調査 平成27年9月20日(日) 集合場所・時間は追ってお知らせいたします

谷津田調査 平成27年12月 上旬 予定

配車の都合がありますので、参加ご希望の方は事前にお申し込みください。

TEL：080-6515-6497(担当 岩井) E-mail：kubi_0929@yahoo.co.jp

印旛郡誌に見る湧水と人々（3）

水田灌漑用の池（その2）

一昔前の水田は、殆ど雨水など天然の水だけで作る天水田であり、湧水は貴重な用水源でした。印旛郡誌には、次の湧水が掲載されていますが、現在の所在の分からないところが多いようです。

（1）印旛沼東部の谷津の湧水

印旛沼東部の沼隣接低地の水田は、洪水ばかりでなく干ばつの常習地です。この地帯の水田は谷津から湧水を引いて使っていました。

【大池】 伊籾（酒々井町）字大池にあり、面積1町歩………水は全区の耕地の用水に供し、夏の引水に際しては遠く公津村八代に及ぼし、云々とあり、名勝の地として「伊籾湧水」ともあります。また、印旛沼の水は灌漑に供せられることなく云々ともあります。

このように、伊籾を含む江川流域の湧水は、一旦、溜池に集めて遠く印旛沼周辺低地の水田灌漑用水として使われていたことが分かります。酒々井町湧水保存会で、「伊籾地区の湧水」を保存しているところがあると思われま



伊籾地区の湧水

（2）その他の灌漑用池

印旛郡誌に掲載されたその他の灌漑用溜池について拾ってみましょう。

【七井戸】 千代田村（現佐倉市）飯重に七井戸と称する小用水池その他の溜池があり、とあります。七井戸は、現在、住宅団地内の公園となっています。

【平沢池】 **【黒田池】** **【黒沢池】** 阿蘇村（現八千代市）米本に平沢池あり。干天でも水見ざることなく、雨続くときは水氾濫することあり。村上区黒田池は、里遠き深林中にあり、泥深く常に数尺の水あり。また、黒沢に黒沢池あり、とあります。いずれの池も新川低地の東側台地裾にあり、黒沢池は、昭和44年版1/5万地形図にその位置が記されています。（文・写真 白鳥孝治）



公園に整備された七井戸

事務局からのお知らせ

事務局より会費納入のお願い：前年度会費未納の方は、お支払いをお願いいたします。

お支払方法：銀行振り込み（振込先 千葉銀行 本店営業部（普通）3706977
又は事務局へ直接（080-6515-6497）

本法人は皆様の会費により運営されており、活動に伴う消耗品や活動参加者への交通費、日当等に充てられています。

「わきみず通信」第17号

発行 平成27年9月5日

編集・著作 特定非営利活動法人水環境研究所

URL：<http://www.wakimizu.org/>

お問い合わせは下記まで

e-mail: office_iwe@wakimizu.org

*****編集後記*****

今年の夏は梅雨明けから晴れば猛暑、降れば豪雨という極端な天気が続きました。エルニーニョの影響と言われていますが、年々 猛暑がレベルアップしているように感じるのは私だけでしょうか？ これは温暖化現象？ それとも地球史上幾度なく繰り返された地球環境の変化の一端にすぎないのでしょうか？地球が誕生してから46億年という時空には、地球環境を一変するイベントが何回か起こったと言われています。今まさにその空間にいるのだとすれば、毎日CO2の削減に四苦八苦している私たちは、報われるのでしょうか？ 地球歴史のスケールの中でほんの瞬きにも満たない人間の一生、その間だけでも平和に過ごせたらいいなあ……
